

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791400076		
法人名	医療法人 神明会		
事業所名	グループホーム ロ・スカークおおまでに(2F)		
所在地	箕面市粟生間谷西3丁目5番7号		
自己評価作成日	平成22年11月1日	評価結果市町村受理日	平成22年12月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成22年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療法人としての医療連携の充実</li> <li>・多彩な行事がある</li> <li>・1階にあるプールを使って運動ができる</li> <li>・近くにスーパーがあり、買い物が便利</li> <li>・自然に囲まれた場所で季節感を味わいながら生活ができる</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設時1名の利用者という不安なスタートだったが、紆余曲折の1年を経過して運営面でも落ちついてきた。管理者・職員の意思疎通が良く事故報告書等書類管理はきちんと整理され、日々サービスの向上につなげている。毎月の行事は多彩で詳細に計画し、自立支援を大切に心のこもった支援が実践されている。利用者は居室から四季折々の眺望が見られ、ゆったりとした気持ちになれる環境にある。地域に法人が運営する病院や老人保健施設等がバックにあり、医療的な面で即対応できる体制が出来ており、健康面でも安心である。館内に温水プールも設置され水中歩行などで筋力アップを図っている。近く3年目を迎えるが管理者及び全職員は丸丸となってより内容の高いサービス向上に意欲的に取り組んでいる。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	約半数のスタッフは事業所理念を実践につなげられている。	愛・奉仕・共感という法人理念を掲げ、職員は理念を共有し、実践につなげている。	運営面でも落ちついてきたこの時期に職員全員で話し合った事業所独自の理念を掲げ、全職員が日々原点に戻る言葉を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのスーパーへ利用者と一緒に行くことで地域との付き合いを行っているが、もっと深められればと思っている。	近隣のスーパーに日常的に買物に出かけ地域の方々と挨拶を交わしている。	自治会への加入を図ることにより地域情報を得たり、積極的に地域行事に参加して地域の方々が事業所の味方となることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩やスーパーへの買物で地域とのつながりを持ち、認知症の人の理解や暮らしぶりを発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、会議メンバーからの率直な意見をもらい、改善していくことでサービス向上に努めています。	2カ月に1回市職員、地域包括センター、地域福祉委員、家族、職員が参加され、報告事項だけでなく双方向に議論が実行されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者には、市町村窓口への訪問や運営推進会議へ参加して頂く等の協力関係を築くようにしている。	市および地域包括センターの担当者には気軽に相談できるように電話や訪問の機会を利用して、協働の関係づくりを努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ推進マニュアルに基づき、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	原則身体拘束を行わない方針を明示し、職員会議で共有を図っている。玄関は暗証番号により出入りすることになっているが利用者の外出希望を把握し出来るだけ対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフ(個々)のパーソナリティを把握し、虐待が行われないよう、見過ごされないように注意しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度を学ぶ機会が十分にもっていないのが現状です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては十分な説明を心掛けている。分からない所や質問がないかを尋ねながら契約を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で家族からの率直な意見を会議メンバーに発表してもらい、改善事項を検討しています。	家族の来訪は多く、全ての利用者の家族とは連絡や意見を聞ける関係が出来ている。相談・苦情処理簿や事故報告書等に詳細に記入され職員会議で共有が図られている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度は必ず、全スタッフが参加するミーティングを行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けています。	毎月の職員会議に於いて職員が意見を言い易い環境になっている。職員のサービス向上心は旺盛である。	開設以来管理者のリーダーシップで短期間で運営を軌道に乗せたが職員の年間の研修計画を作成し、外部研修も含めた実行を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況の把握は十分に行なえていない。職場環境・条件の整備については、努めているところもあるが、十分ではない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会の確保がほとんど出来ていません。今後の課題です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症実践者研修受講で、同業者と交流する機会を持ったスタッフもいるが、ほとんどのスタッフは交流をもてていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との信頼関係作りは個々のスタッフが気を付けて行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等との信頼関係は個々のスタッフがしっかりと対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族のニーズに応えられるように柔軟な対応を心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人と多くコミュニケーションを図れるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の絆を大切にしながら、本人・家族との関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所や友人の訪問に際しては交通機関の案内等を支援しています。	利用者のなかには友人が来訪され昔の交友関係の会話をされ、楽しまれている。事業所は家族に知人や友人の来訪を依頼している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合い支え合えるような支援に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居される場合等、こちらでの過ごし方等の情報提供に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	スタッフ一人一人が思いや意向の把握が出来るように努力しています。スタッフ間で検討する事もあります。	利用者ごとの希望や思いを聞くことを日々大切にしている。また家族からも過去の習慣や希望の情報を得るように努め、職員間の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者毎の個人ファイルを作成し、本人・家族からの情報収集を行い、スタッフ間での情報交換を行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態・行動観察をしっかりと行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議を行い、現状に即した介護計画を作成しています。	毎月新鮮な眼でモニタリングを実行し、医師や家族ならびに職員と相談しながら計画の変更が必要な場合は即対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録の記入や申し送りで情報の共有、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援、サービスの多機能化を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんに訪問していただいたり、近所のスーパーへ買い物ついでに散歩しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるように支援しています。	入所以前のかかりつけ医の受診は継続され支援されている。母体の協力医療機関から、利用者は月2回往診を受け、また近隣にあるグループ老人保健施設に相談でき健康面で安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1階デイサービスの看護師と連携を取り、適切な受診や看護を受けられるように対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あまり取り組めていません。	入所時に重度化に対応する指針書を家族に説明し、実際にターミナルケアを行う場合の対応書類は整っている。現在まだ事業所として重度化の経験はしていないが職員や家族との共有を検討中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設オープンH21.1月に行ってから訓練を行っていません。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っていますが、地域との協力体制は築けていません。	消防署の立会いの基での訓練や事業所独自の避難・誘導訓練を行なっている。地域の同業者との交流でも課題の検討をしている。。	非常時災害時の対応手順書を作成し、職員の共有や訓練を重ねると共に自治会の防災に参加したり地域への協力依頼を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けを行っている。	経験豊富な職員も多く、プライバシーを損ねる言動に気付いた時はお互いに即注意をしようとしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人とのコミュニケーションの中で、思いや希望を引き出して働きかけます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に応じたケアや支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれが出来るように支援しています。外出の時等は特におしゃれ出来るように配慮しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に盛り付けを行ったり、準備・片づけも一緒に行っています。	栄養バランスを配慮した食材を業者から仕入れてデイサービスで料理し、利用者が盛り付けや片付けを手伝っている。菓子作りやお寿司作り等多彩な楽しみ食事を毎月利用者と一緒に作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や栄養バランスは管理栄養士が管理し、一日の水分量はチェックし、スタッフ間で情報共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員が出来ているわけではないが、なるべく出来るように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排尿パターンはつかめていないが、時間とサインを見ながらトイレで排泄が出来るように対応している。	職員はオムツを実際に経験することにより、食事や水分、運動や外出に配慮し、出来るだけオムツをしないように自立排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るように散歩等の運動、食事等で対応しているが、最終的に出ない場合は薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の利用者の希望やタイミングに合わせて声かけを行っています。	週3回以上を目標にし、時間や回数の希望を聞き、楽しい入浴をする支援をすることで利用者の睡眠や気持ちの落ち着きを促進している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や体力に合わせて休息してもらえるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人一人が服用している薬をファイルにして目的や副作用がわかるようにしています。服薬後は状態の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ボランティア行事を含む企画を一カ月ごとに企画している。日々のレクリエーションもなっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援に努めているが、全員の方が外出出来ているわけではない。フロア内での散歩のみの方もいます。	日常的に近くのスーパーへの買物や、神社等へ散歩に行くようにしている。施設周辺は坂道が多いので外出が困難な人は館内での散歩をしているが、併設のデイサービスの車を利用して花見や紅葉狩り、バラの観賞など季節折々の外出を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーに買い物に出た時は、自分で支払いをしてもらおう方もいるが、所持の支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	あまり支援出来ていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁に季節感が出るように季節に合わせて貼る物を変えています。	食堂は少し狭いが居間・浴室・2ヶ所のトイレはゆったりとして落ち着ける。所々に手づくりの絵や習字を展示し、季節感のある花が飾られ、明るい共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファでくつろげるようにしています。気の合った利用者同士でお話ができるように席を考慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でなじみのある物を持って来てもらったり、写真を貼ってもらったりと、安心感を持って居心地良く過ごせる工夫をしています。	施設名の「ロ・カローラ」は「寄港地」を意味している。各居室入り口には全国の寄港地名と名札を掲げている。居室には馴染みの家具や写真、生け花等で飾られて和める環境になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存能力を活かして、出来るところはしてもらえようように努めています。		